

対応状況報告書

大 学 名：長岡技術科学大学

評価実施年度：令和元年度

報告年度：令和4年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○ 工学研究科博士後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に超えている。
対応状況	<p>・工学研究科博士課程：1.23倍（平成30年度～令和4年度見込み）と改善した。</p> <p>上記の改善を要する点の指摘に関して、将来計画委員会で工学研究科博士後期課程の改組及び入学定員増を検討し、令和4年度から「情報・制御工学専攻（7名）」、「材料工学専攻（6名）」、「エネルギー・環境工学専攻（7名）」、「生物統合工学専攻（5名）」の学生募集停止および入学定員を計25名から30名とする「先端工学専攻」の設置を文部科学省へ申請し、認可された。</p> <p>令和4年4月入学者は10名、9月入学見込み者は14名となり、本年度の入学定員充足率は最大で0.8倍の見込みである。</p> <p>これにより、平成30年度～令和4年度の5年平均見込みは最大で1.23倍となる。</p> <p>【根拠資料・データ】 認証評価共通基礎データ（抜粋） 5-3-1 工学部・工学研究科（修士課程・博士後期課程）改組資料</p>

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「Ⅱ 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。

4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。